

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



## WEEKLY

# なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ  
 承認 1982年 8月24日  
 例会日 火曜日 12:30  
 例会場 愛知厚生年金会館  
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121  
 会長 小坂井 盛朗  
 幹事 舎人 経昭  
 会報・雑誌委員長 伊藤 健文

No.38

## 手を貸そう

## Lend a Hand

2003~2004年度 RI会長 ジョナサン・B・マジアベ

### きょうの例会

第1041回 平成16年5月18日(火)

#### 帰国挨拶

青少年交換学生 ブリジットさん

### 先週の記録

第1040回 平成16年5月11日(火)

晴

#### ◆“君が代” “我等の生業”

#### ◆斉唱 “四つのテスト”

#### ◆出席報告

会員	65(54)名	出席	46名
出席率	85.19%		
前々回	4月20日(修正出席率)		90.91%

#### ◆ゲスト紹介

ロータリアンOB	松島 孝彰様
鈴木理之君ゲスト	渡辺 源市様

### 舎人幹事報告

1. 本日例会終了後、クラブアセンブリーを開催致しますので今年度・次年度の理事役員・各委員長は百合の間にお集まり下さい。
2. 次回例会終了後、理事役員会を開催致しますので理事役員の方はお残り下さい。
3. ガバナー月信が来ておりますのでお帰りにお持ち下さい。

### 小坂井会長挨拶

#### 物々交換

ある日、将校棚の奥深くに秘蔵していた煙草「極光」を全部取り出した。20本入りの両切シガレットは数えたら11ヶある。その時の煙草の価値は1本でパン一食分に相当し交換されていた。大きさは今のレーズンパン一山を八つか十に切った大きさが一食分なのである。今のようにスーパーへ行けば何でも自由に買える状態ではない。腹のたしになる食物が手に入る事は絶対にならないのである。

その命の綱ともいふべきパンをたかが煙草一本と同価値として交換されたのである。若い時に私は「インフレーション来りなば」と云うドイツ書を読み、煙草1本がグランドピアノ1台と交換されたと云う考えられない事例に目を釘付けにしたことがある。

シベリアでも煙草が極端に珍重され色々な不祥事が頻発した。

捕虜生活の中ではいろいろな物が交換された。飾り職人であったA一等兵は将校飯盒の中ブタを材料に二ツ折りの煙草ケースを作った。表に松竹梅を鮮やかに彫金した見事なものである。これはソ連将校にパン一山と交換された。又、段ボールで花札を作った奴もいた。きれいに書き上げてローソク油をさっとくぐらせた見事な出来ばえであった。マージャンの牌を作った奴もいた。白樺と松の木を使い重さを出す為に中に小石を入れ彫り上げた立派なものである。さすがにこれは売られることはなくパン二片で貸出され皆が利用した。将棋は盛んに作られ捕虜生活の無聊を慰めてくれた。

その他にも色々な物が作られたが、ソ連兵に没収され誰も持っては帰れなかった。私は、白布(シート)で真白な開襟シャツを作った。これは一着でパン一本と交換できた。自分に裁縫の才能があったり買う機会があった訳ではないのだ。では何故パンと交換できるようなシャツを作る事ができたのか?その訳を説明しよう。

それは苦学生時代、足袋を買う金がなくて困った時、小さくなった小倉の学生服から自分の足袋を作って履いた事がある。この時は穴の空いた古い足袋をひっくり返してお手本にして考えて作ったのだった。今度も何の事はない。ポロポロになっていても開襟シャツの現物見本があるのだから型紙を作ってミシンを掛けたように根気良く巻き縫いをすればよいのだ。時間は掛かったが我ながら良い出来ばえであった。

しかし、まっ先に作業長にねだられ自分が着れなかった。仕方がない。作業長とは仲良くしなければならぬ。よしと大まけしてパン一本の半分に分けてやる事にした。彼は大喜びで早速次の日の朝礼に颯爽と着用し及び大満悦だった。カギさきや穴だらけのポロ

シャツを着た千五百人の大部隊の前で一人だけまばゆいばかりに輝やいたシャツでの挨拶は一段とサエていたような気がする。

そんな中、皆が煙草が手に入らなくなると白樺の葉を紙に巻いて吸い出したり、お茶葉を紙に巻いて吸う始末に軍医はカンカンになり、「貴様ら肺炎を製造しとるのか？」と怒鳴っていた。炊事場ではお茶ガラが盗まれるので穴を掘って埋めたが、すぐに掘り返される始末でホトホト軍医は手を焼いてしまい、「死にたい奴は死ぬ！俺は知らんぞ！」とわめくのであった。

私は秘蔵のタバコ「極光」を取り出し、皆に思う存分吸わせるともう煙草はないよ。パンと交換は止めよう、体を大切に、命を大切に、何としても日本へ帰ろうではないかと涙でぐちゃぐちゃの顔をして誓い合っていたのであった。

●卓 話

“「職業奉仕委員会」を担当して”

会員 二村 聡君

今年度の地区職業奉仕委員長は名古屋みなとRCの関口宗男さんで、「職業奉仕」に付いてはとても深く研究をして見える方で有り、8月の地区職業奉仕委員会が名鉄グランドホテルで開催され、関口委員長の意気込みと情熱に圧倒され、「勉強して下さい。理解して下さい。」の指示で驚き、講義とテーブルを囲んでのミーティングで、えらいこっちゃ、と成りました。

当日は第2680地区芦屋川RCの田中毅バスターガバナーによる、非常に格調高い講義で有りました。

さらに、各クラブの職業奉仕委員に、自身が実際に行った職業奉仕の実例を文章にして編集する事となり、お気楽に考えていた私は、本当に大変な事に成ったと思いました。

でも、お蔭様で、私なりの事例を書き、地区委員会発

行の「職業奉仕事例集」に記載する事が出来ました。

釈迦に説法と思いますが、委員会として私が学んだ事を、それを実践しているかどうかは別として、一、二お話しさせていただきます。

1. ロータリー、この素晴らしきもの

(1) 奉仕の理想

「自分のことをあとまわしにして、人のために役立つことをしよう」という人間の善意が実は、自分の為にもなる。

それを、体験的に信じている世界中の人の集いがロータリーで、その実践が奉仕の理想である。

(2) 奉仕の心を育てる為には「例会出席」

ロータリーの素晴らしきは「例会」にある。

20世紀の奇蹟といわれたロータリーを21世紀まで引き継いで活動するためには、各ロータリークラブを充実させる必要がある。

その為には、例会出席が必要である。

親睦の中で、磨き合い、学び合い、寛容と調和の心を身に付けていく必要がある。

そして、それが奉仕の心を育てる。

2. ロータリークラブは奉仕の心を育てる場、人生の道場、人を作る場である。

(1) 親睦

親睦とは、気兼ねのない話し合い、笑いのある楽しい雰囲気の中で醸し出された会員同士の親睦のエネルギーが、心と心の交流を通じて、自己研鑽、自己改造、自己改良をし、さらに育てて行く事を意味するもので有る。

(2) クラブ例会

そして、その場所を提供しているのが例会であり、その為の出席義務である。

ニコボックス

小坂 井盛朗

長い連休を利用し、家内と六ツ星の豪華客船シルバーシャドー号で11日間の船旅を満喫してきました。久しぶりの中国、随分と変わりました。土地は国家の物との共産主義と、14億民衆の限り無きバイタリティーに一種の脅威を感じました。

無事帰国を感謝します。

佐久間 良治

4月の麻雀会で優勝しました。

油田 弘祐・二村 聡

萩原 喜代子・池田 隆

池森 由幸・伊藤 健文

伊豫田 博明・榎尾 富二

加藤 重雄・菊池 昭元

小杉 啓彰・小山 雅弘

黒須 アイ子・牧野 登志子

松居 敬二・三輪 康

宮本 光久・宮尾 紘司

水野 民也・水谷 祥督

西川 豊長・佐野 寛

笹野 義春・鈴木 正男

鈴木 理之・竹内 眞三

舎人 経昭・魚津 常義

和田 正敏・山田 壽勝

山本 英次・吉田 節美

連休も明けました。

松永 正史

夫人誕生日祝い。

久野 峯一・大口 弘和

澤田 淳治

結婚記念日祝い。

合計

85,000円

次回例会

平成16年6月1日(火)

卓話 “へそまがりの話”

会員 竹内 眞三君